

萩城下町周遊プログラム実施業務委託に関する質問及び回答

令和7年6月27日

	質問	回答
1	当企画の方針として挙げられております「宝探しや謎解きゲーム」を含め、これまで萩市で実施された周遊イベント等の中で、特にご好評であった事例や要素がございましたら、参考としてご教示いただくことは可能でしょうか。	毎年、当室では構成資産の周遊促進、理解増進のため、周遊プログラムを実施しています。近年の状況は下記の通りです。市内外から多くの方が参加され、アンケートにおいても満足度は高く、好評でした。 【令和5年度】 謎解きウォークラリー2023 ～試行錯誤を重ねた先には～ 実施期間：7/22～9/18 参加者数：492 人 内容：5つの構成資産を周遊しながら、謎を解き、正解者は景品がもらえるもの 【令和6年度】 萩の世界遺産をめぐる！謎解きウォークラリー2024～先人が築いた近代化への道筋～ 実施期間：9/14～11/10 参加者数：460 人 内容：5つの構成資産を周遊しながら、謎を解き、正解者は景品がもらえるもの
2	周遊プログラムの実施目的に照らし、特に重点を置いて伝えたい文化財や歴史等の要素（教育的価値、建築的特徴、歴史人物など）がございましたら、ご教示いただけますと幸いです。	旧萩城の外堀から外側に広がる城下町は、町筋は碁盤目状に区画され、商家をはじめ、中級の武家屋敷や医者の家などが点在していました。現在でも町筋はそのままに残り、往時の面影をとどめています。白壁となまこ壁や黒板塀の美しい町並みが続き、木戸孝允旧宅、高杉晋作誕生地、高杉晋作や伊藤博文が学び遊んだ大きな天狗面のある円政寺など、維新の志士ゆかりの地が点在しています。

「明治日本の産業革命遺産」の構成資産のひとつである「萩城下町」は幕末に産業化を目指した地域社会を表します。

萩城下町は、幕末に日本が産業化を目指した当時の地域社会における政治・行政・経済を表す資産で、資産の範囲は次の3地区です。

1. 城跡（萩城跡の中堀の内側）は、西南雄藩の一つである萩藩の政治・行政の中心であり、産業化や西洋技術の導入についての藩の政策形成の場でした。

萩城は萩藩を治めた毛利氏の居城であり、13代藩主敬親は、萩反射炉や恵美須ヶ鼻造船所の建設を決定するなど、近代産業化のきっかけを作りました。明治7年（1874）に天守閣は解体されましたが、現在まで石垣と内堀は良好な状態で残っており、幕末の産業化開始時点における西南雄藩の政治的拠点の姿を今に伝える遺跡といえます。

2. 旧上級武家地（堀内伝建地区および萩城外堀）は城跡とともに萩藩の政治・行政の中心地で、産業化等についての政策形成の場でした。

3. 旧町人地（萩城城下町の大部分）は城下町やその周辺で営まれていた商業活動や小規模工業を基盤とした当時の伝統的経済の姿を示しています。

当時の城下町に高度な匠の技があったからこそ、日本の産業化が急速に進んだと考えられており、旧上級武家地や旧町人地には江戸時代の町割り、上級武家や幕末・維新の志士等の屋敷・石垣などが良好な状態で残っています。

このように萩城下町は、産業化に取り組んだ地域社会を最もよく示している遺跡であるとの価値が専門家から評価されています。